共助社会における個人や企業の役割 ~持続可能な地域社会の創造に向けて~



地域の未来>問題意識

地域が地域としてあり続けるために...

- ・地方は消滅していいか → ダメ!
 - 一多様性、文化性、有機性...
 - 一現代社会が抱える社会病理や生物的限界
- ・本当に地域は疲弊しているのか、資源はないのか?
- ・これまでの「中心」(東京)「周辺」(地方)の関係性を見直す
 - 一資本主義の新しい形の模索、もう一つのカタチの提示
- ・地方の創造性をもっと信じて委ねる政策のあり方 (脱護送船団)
- <u>・人口減少(消滅危機)をチャンスとして捉え、地域構造の変化を</u>
- ・本当に「コンパクトシティ」をつくれば問題は解決するのか
 - 一自立分散型の持続可能なゾーニングした都市圏構築を
 - 一暮らし方、生き方、働き方
- ・地域は誰が支えるのか? 公共性の維持(これまでとこれから)

地域の未来 >「近代のつくりなおし」共助社会

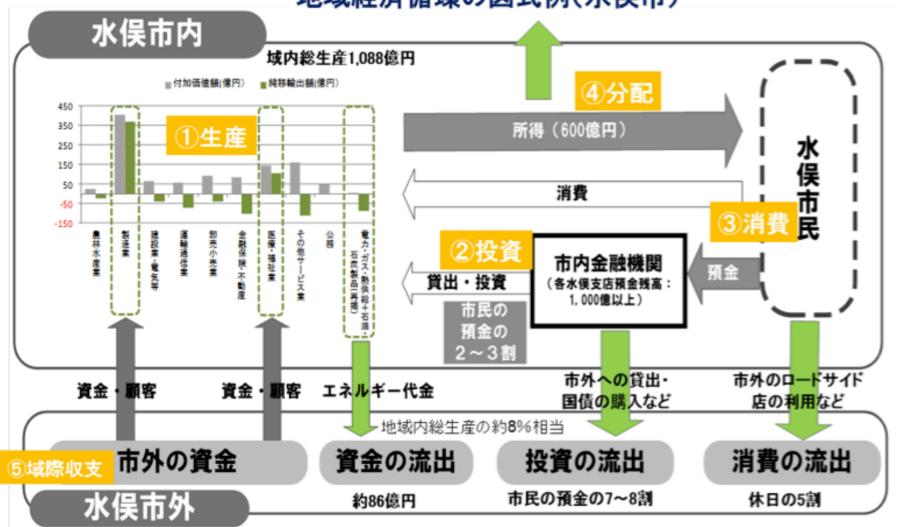
人口減少時代の地域づくりのキーワード

自立分散型の持続可能な地域社会

- ・人口減少を契機に、地方の在り方をかえる/経済の質を変える
 - 一「中心」と「周辺」の収奪構造の関係からの脱却
 - 一 グリーン経済成長、域内経済循環 →ローカルなりの成長はある
- ・外部依存型から内発型へ「誘致モデル」から「自発モデル」へ
 - ー ポテンシャルをつなぎ・引き出す
 - 一 健全な地域間競争を促す
- ・安心して生きていく、幸せ実感 「役に立ちたい」という気持ち
- ・「多様な豊かさ」の発信

持続可能な「地域社会」 ⇔ 共 助 社 会 の 実 現

地域経済循環の図式例(水俣市)



「平成23年度水俣市環境まちづくり推進事業概要報告書」

「ローカルプライド」

- ・表層的なブランディングやキャンペーンでは限界
- ・一方向型の情報発信や消費行動は結局、地域に着地しない
- ・地域の本質的な付加価値や住む人々のQOLを高める必要性
 - ・コミュニケーションデザインの角度から
 - ・選択軸をローカルにおく生活と生き方
 - ・つながりがビジネスにもつながる
 - 「ないもの探し」→「あるもの」に気づき、活かす
 - 空き家、インフラ、公共施設 社会資本ストックの取捨選択と利活用

顕在化する「空き」を活用した地域空間の再構築

地方の真の豊かさを発信し、より創造的に根ざしていく

これから必要な取り組み

- ・地域の金融力を引き出す「社会的投資」の活性化
- ・中小企業のあり方や位置づけを再構築
 - >商工会議所などを地域維持・発展のイノベーティブな拠点に
 - >地域経済圏の確立と起業や副業起業、帰業を促す
- ・地域にフックをかける(ローカルプライドの醸成)
- ・高等教育の見直し(特に職業系教育 → 多様な職業人の育成を)
- ・クロス・ベネフィットを基本とした政策評価

総力戦の地域づくり

住民の自治力を引き出し、自己決定力ある豊かな地域に

「地方創生」は決してバラまきにせず、パラダイム転換や可能性を 引き出すために → 「もらうーあげる」から脱却を!!

キーは「社会的投資」の促進

休眠預金の利活用/投資減税 ローカルファンドの支援

- ・地域活性化手法を補助金型から知恵/成果型にシフトさせる
- ・オーナーシップ型地域経営 > 自治体のガバナンス改革に
- ・クロスセクターベネフィットで成果を図ることで分断から統合へ
- ・社会収益率などの評価手法を確立させ、
- ・社会投資減税などをテコに、地域に必要な多様なインフラを整備
- ・知恵をあつめたり努力ができない地域は消滅へ
- **・G8**での議論

始まっている萌芽的な動き → 未来志向の共助社会へ

- ・震災復興から見える兆し ~震災から何を学び未来をつくるか
 - ○クラウドファンディングによる社会的投資
 - 一地場産業の復興
 - 一税金以外で公共性のある事業を展開 ソーシャルビジネス
 - ○高齢者、主婦などの新たなローカルビジネスの勃興
- ・市民コミュニティ財団から見える兆し
 - -2009年~2014年の5年間に約2億円の市民からの寄付(京都地域創造基金)
 - 一寄付文化とそれをベースに展開される事業の社会的収益
 - 一市民のオーナーシップによる公共的事業
- ・農起業家
- ・リノベーション
- ・再生可能エネルギーを軸とした地域づくり

住民の自治力を引き出し、豊かな未来の地域をつくる必要性